

【日本の大学】第 53 回——青山学院大学：キリスト教主義の伝統と国際性

青山学院大学は 1949 年に「キリスト教信仰に基づく教育を目指して」設立された私立大学である。その源流は明治時代の初期に米国のプロテスタント・メソジスト監督教会から派遣された 3 人の宣教師が創設した三つの学校から始まっており、150 年近い歴史と伝統でつながっている。

教育方針は、「神の前に真実に生き 真理を謙虚に追求し 愛と奉仕の精神をもってすべての人と社会とに対する責任を 進んで果たす人間の形成を目的とする」と定めている。

以下、青山学院大学のホームページなどからその歴史と現状をみていこう。



真っ白に染まった青山キャンパス正門

宣教師創始の 3 学校が源流

三つの学校とは、1874 年にドーラ・E・[ガウチャー記念礼拝堂](#)女史が東京・麻布に開校した「女子小学校」（翌年には「救世学校」に改称）、1878 年にジュリアス・ソーバー博士が東京・築地に開校した「耕教学舎」、1879 年にロバート・S・マクレイ博士が横浜に

開校した「美會神学校」である。



15号館（ガウチャー・メモリアル・ホール）

これら3校はその後、1881年に「東京英学校」と改称したり、83年に東京・青山に土地を購入し「東京英和学校」と名称を変更したり、と移転や合同を重ねた。1894年には、東京英和学校を「青山学院」に改称し、神学部と普通部を置いている。女子教育を担った救世学校の方は「海岸女学校」となり、青山に移転して「東京英和女学校」として開校（1888年）したあと、95年には「青山女学院」となった。

1923年には関東大震災が発生し、青山学院、青山女学院とも校舎や諸施設が大破した。1927年には青山学院と青山女学院は一緒になった。この時点で神学部、高等学部、中学部、高等女学部が置かれた。太平洋戦争（第二次世界大戦）前は戦争の足音が近づく中で、宣教師の米国への帰還命令や神学部の閉鎖など厳しい環境に直面した。終戦が近づいた1945年には空襲によって校舎や諸施設の大半が罹災している。

大戦が終わってまもなく学校の活動は動き出し、1946年には米国メソジスト教会からの宣教師派遣も再開された。47年には青山学院中等部が開校、青山学院専門学校横須賀分校も始まった。

新制大学として青山学院大学が開校したのは1949年である。文学部、商学部、工学部でスタートした。専門学校横須賀分校が工学部となったが、翌50年には関東学院大学と合併した。文学部は神学科と英米文学科の2学科での発足だった。大学の歴史は、キリスト教教育と英語教育を教育の基礎としてきたことを考えると、文学部がその中心的な役割を担ってきたと言えるだろう。

文学部はその後、フランス文学科（1962年）、日本文学科（1966年）、史学科（1968年）を次々に設置、2012年には比較芸術学科を新設しており、現在、5学科体制（神学科は1977年に廃止）となっている。



間島記念館。正門から正面奥に見えるコリント様式の外観を持った青山学院の歴史と伝統を象徴する建物である。1929年竣工、2008年国登録有形文化財に登録された。

商学部は1953年に経済学部へ改組し、1959年には新たに法学部を設置した。学部の新設は続き、1965年に廻沢キャンパス（71年に世田谷キャンパスに改称）を開学するに伴って理工学部を設置、1966年には経営学部を、1982年には国際政治経済学部をそれぞれ新設した。

理工学部は、真理を追究して自然を構成するものを支配する法則や原理を見つけ出す理学と、理学の理論に基づいて人類が持続的な発展するためのさまざまな技術を生み出

す工学を融合させる教育と研究を進めている。1965年の創設当初からある電気電子工学科のほか、機械創造工学科、経営システム工学科、情報テクノロジー学科といった工学系と、物理科学科、数理サイエンス学科、物理・数理学科、化学・生命科学科の8学科で構成している。学生のグローバルな活動を見据え、学部独自の英語教育や留学サポートをする「理工学国際プログラム」や、低学年時から研究室の授業に参加し、高度な学習が可能な「理工学高度実践プログラム」など、多様な学生のニーズに応える学修支援システムを用意している。

1982年に創設された国際政治経済学部は、国際政治学科、国際経済学科、国際コミュニケーション学科の3学科からなっている。このうち国際コミュニケーション学科は2006年に加わった学科である。3学科で計5コースがあり、学部生は1年次にどのコースに進むのかを決定する。少人数のゼミ教育を通じて能動的な学びを深める。外務省、防衛省、証券会社などの一線で働く人の講義を通じた生きた学びを進めること、第2外国語を含む語学教育、海外研修、留学などにより、高い国際性の実現を大きな目標にしている。



青山キャンパスの銀杏並木は、夏は緑のトンネル、初冬は黄色い絨毯のように四季折々を彩る。

21世紀に新たに4学部

現在ある 11 の学部のうち 4 学部は 21 世紀に入ってから設置された比較的新しい学部である。2008 年にできたのが総合文化政策学部（総合文化政策学科）と社会情報学部（社会情報学科）の 2 学部、2015 年には地球社会共生学部（地球社会共生学科）、2019 年にはコミュニティ人間科学部（コミュニティ人間科学科）がスタートした。

総合文化政策学部は、「文化を創造し、マネジメントできる能力を備えた人材の育成」を目的としている。文化政策とは、日本の文化・芸術を国内外に発信するためにどのようなノウハウを学ばばいいのか、国や地方自治体は、芸術家をどのように育てていけばいいのか、といった問題を学んでいく。ゼミ（理論を通じた知識）、ラボ（実践を通じた知識）、英語教育の 3 本柱で学びを進める。

社会情報学部は、文系の社会科学、人間科学と、理系の情報科学の融合させた学びによって各専門分野をつないで新たな発想へと導く力を培う。社会、情報、人間の複数分野にまたがる学際的な学びを通して、論理的・数理的思考やコミュニケーション能力、情報活用スキルを身につける。国際的な活躍を意識して学部独自の英語教育を行うことに加え、データに基づく論理的思考力を養う統計学やプログラミングの授業を必修化している。

地球社会共生学部は、世界の人々と共通の目線で協働できる知恵と力、「共生」マインドを持ち、高い倫理観と社会奉仕の精神を備えたグローバル人材を養成する。「地球社会」を対象とし、国境を超えた課題に積極的に取り組むという高い志を示している。その中でも急速な経済発展を遂げつつあり、かつ膨大な人口と文化の多様性を有し、日本と地理的、経済的、社会・文化的に密接な関係のあるアジアを中心的な学びの場と位置付けている。アジア諸国への留学を通じた、国境を超えた異文化体験をカリキュラムの柱としている。専門的な学びとして、共生の道を探る「コラボレーション領域」、自国と他国の経済や企業の仕組みや違いを理解し、現地の人々と協働し、共に価値を見出すような人材の育成を目指す「経済・ビジネス領域」、知るため、知らせるための技法を学ぶ「メディア・空間情報領域」、それらの学びを基本として、社会を知る方法を考える「ソシオロジー領域」という 4 領域が用意されている。



B棟 メディアセンター（相模原キャンパス）

地域・社会貢献に力点

最も新しくできたコミュニティ人間科学部は、地域貢献・社会貢献を強く意識した学部である。地域社会を、自律的な行動ができる人びとによって構成される「コミュニティ」にしていくこと、そのために人びとを支援すること、学生自身がそのような人間になっていくことを目指している。行動するだけでなく、知識や思考に裏打ちされた行動する人間を育成する。学部基礎科目や研究理解科目、演習科目を学びながら、地域社会と人びとに関わる諸課題を五つの履修プログラムを設け、それぞれの内容について学びを深める。「子ども・若者活動支援」「女性活動支援」「コミュニティ活動支援」「コミュニティ資源継承」「コミュニティ創生計画」の五つがある。

キャンパスは本部のある青山キャンパスと、神奈川県相模原市にある相模原キャンパスがある。青山キャンパスは都心の立地を生かした学術研究や文化創造の情報発信型キャンパスである。人文科学系・社会科学系の7学部（文学部、教育人間科学部、経済学部、法学部、経営学部、国際政治経済学部、総合文化政策学部）と大学院16学科が集結する。相模原キャンパスは、厚木キャンパスと世田谷キャンパスを閉じて2003年に開学したもので、理工学部、社会情報学部、地球社会共生学部、コミュニティ人間科学部の4学部が集っている。



C棟 ウェスレー・チャペル（相模原キャンパス）

海外との交流、海外留学、外国人留学生の受け入れなど国際化には力を入れている。国際センターがそうした業務を担っている。留学では、留学期間を在学期間に算入される在学留学、短期の海外語学、文化研修を行う短期留学、休学しての留学も可能である。

外国人の留学希望者に対しては、毎年4月に留学に関する基本事項の説明会を開いている。外国人留学生には毎年開催している留学フェアで、アジア、米国、欧州など地域別の協定校大学ブースで留学経験者や国際センターのスタッフなどが個別相談に応じている。一般学生と留学生との交流を目的にした外国人留学生チューター制度もある。

青山学院は、幼稚園から小中高、大学、大学院まで一貫した、キリスト教信仰に基づく「青山学院教育方針」のもとで教育・研究を行っている。幼稚園から初等部、中等部、高等部、大学、女子短期大学へとつながっている。高等部から大学へは、青山学院にない学部などに進学する生徒を除いて、約85%が大学に内部進学している。



渋谷から見渡す青山キャンパスと東京

渋谷に近い青山にキャンパスがあり、華やかさと都会性を備えており、女性に特に人気を博している。学生数は学部が男性 9143 名、女性 9319 名の計 18462 名、大学院は 1239 名。教員数は学部が 2034 名である。(以上 2021 年 5 月現在)

学長は阪本浩氏である。1978 年、青山学院文学部史学科を卒業し、80 年東北大学大学院文学研究科西洋史学専攻博士課程前期 2 年の課程修了、青山学院大学文学部史学科専任講師、助教授を経て、1999 年教授に就任。2016 年文学部長、大学院文学研究科長、17 年副学長を歴任。2019 年 12 月から現職。専門は古代ローマ史である。

文：滝川 進

写真：青山学院大学 FaceBook